



いつもなら実習生の列が行き来しているはずの実習生通学路脇にある菜園のプチトマト

企画・編集 澁谷 健司/栗又 由利子

残暑お見舞い申し上げます。開催に関して賛否両論あった東京五輪が無事終了。テレビは、日本のメダルラッシュで大いに盛り上がりました。また、連日放送される世界各国からの代表選手達の活躍は、私達に多くの感動を与えてくれました。その一方で、日本国内のみならず、実習生の出身国アジア諸国での、急速なデルタ株の感染拡大のニュースを観るにつけ、日々の生活に対する不安感が増してきていることは否めません。夏が終わる来月には、感染が収まり、実習生の入国再開に向けた明るい兆しが見えていることを祈るばかりです。

あじけんスコープ Vol.100 ～第6回 日本語講師研修会～



先生と生徒役に分かれての模擬授業の様子

実習生の入国がストップして以来、毎月実施している日本語講師研修会も今月で6回目を迎えました。

今回の研修会は、7月に行われたJITCOの日本語指導講習会の参加報告会となりました。午前中は、講習会で学んだ内容をシェアしました。実習現場での日本語コミュニケーションを想定した指導の大切さ、また、そのコミュニケーション能力を効果的に向上させるための学習者主体の日本語指導の重要性といった技能実習生への入国後日本語講習の基礎となる考え方について、講師間で共通理解を深めました。午後は、先の講習会でも取り上げられた「確認表現」の効果的な指導方法についてグループ検討会を行い、その結果を模擬授業として披露しました。

今月の実習生

今月の実習生は、このコロナ禍の中、技能実習第三号の在留資格を取得して、7月23日に日本への再入国を果たし、8月3日まで、当校アジア研修センター寮で待機滞在していたフィリピン人実習生 RAQUINIO DIANA VALLO (ディアナ) さん JAMANDRA KARENA QUIABANG (カレナ) さんの2人へのインタビューを紹介させていただきます。

まず、このコロナ禍において、更に2年間の実習延長を決めた理由を聞くと、自分の為、家族の為に、日本で5年間実習する事は、来日当初からの夢であり、目標だったので、コロナの感染拡大があっても、3年間で帰ることは考えませんでしたとのこと。また、「日本での実習期間中、日本人の同僚に恵まれ、とても親切にしてもらったからこそ、あと2年日本で実習を頑張れます。」と、本当に嬉しそうに話してくれました。

日本に来たときは毎日が不安でした。でも、一緒に働く日本人が、いつも「だいじょうぶ?」「がんばってね」とか言ってくれるのがとても嬉しかったです。今は、安心して日本で生活できます (カレナ)。

日本の人は、いつも気配りしてくれて、嬉しいです。会社の同僚は、よくお土産で、食べ物をくれます!寮の近くの人は、自分の畑で採れた野菜や果物をよく分けてくれます。みんなとても親切で、わたしは幸せです。(ディアナ)

明るく、元気なカレナさん、ディアナさん。これからも、体に気をつけて、技能実習に取り組み、是非、日本で沢山の経験を積んでいってください。お2人の今後の2年間が素晴らしい時間になることをスタッフ一同願っています!



カレナさん

ディアナさん

あじけん流日本語授業

～ 会話テスト「Dレベル」 ～

今月のあじけん流日本語授業ですが、来日がまだ再開されないため、日本語授業のご紹介をすることが出来ません。そこで、せっかくの機会ですので、当校が最重要視しており、講習開始時、修了時に行っている会話テストの基準、内容をご紹介します。

当校の会話テストは、6段階、A～E-（イーマイナス）で判定しています。各レベルの基準は以下の通りです。
A：語彙数・表現力とも豊富で、自然な日本語（日本人が話す通常の速さでの日本語）での日常会話をほぼ完璧に理解し、応答も適切且つ非常に流暢である。

B：自然な日本語の問い掛けを的確に理解し、語彙数は限られているものの複雑な質問にも答えられる語彙の運用力が認められる。発話にもある程度の流暢さが認められる。

C：基本的な質問になれば、自然な日本語を聞いて幅広い範囲で理解が可能である。語彙は限られているが応答にも支障がない。発話にもある程度の流暢さが認められる。

D：自然な日本語を聞いて、基本的な質問であれば何とか応答出来る。発話の流暢さには欠ける。

E：ごく基本的な内容の質問（自分の年齢・家族構成・受け入れ企業名など）にしか答えることが出来ず発話にもたどたどしさが残る。

これに加え、Eレベルに満たないレベルをE-（イーマイナス）と判定しています。この6つの段階の中で、今回は、当校講習修了時の目標としている「D」レベルについてご紹介いたします。Eレベルの問答（組合の名前は？今日は何月何日？今、何時？など）はクリアし、以下のような質問にも、答えたり、反応したりすることができる実習生を、「D」レベルと判定しています。

【母国では勉強していない名詞をきちんと理解している】

- ・部屋の押し入れには、なにが入っているの？
- ・日本でなにか調味料、買った？
- ・貴重品はいまどこにあるの？

【少し複雑な指示に従うことができる】

- ・うしろの丸い机の下にあるカバン持ってきて
- ・ロッカーの上から3番目開けて
- ・鉛筆削りの隣に、これ、戻してくれる？

【聞き返しができる】

- ・あそこの付箋紙持ってきて 「すみません。付箋紙ってなんですか」
- ・電子レンジって部屋にある？ 「すみません。電子レンジってなんですか」

（講師が意図的に、わからない言葉を使って質問をしているので、わからなくても、聞き返しができればOK）

以上のような応答ができるよう、教室でも各講師が工夫をしながら授業を行っております。

そして、今後は、これに「確認」という項目をプラスしたいと考えており、どのような授業をすると、「確認」という行為、発話が身に付くか、講師全員で授業内容改善に取り組んでいます。これからも実習生が実習先で困らないよう、しっかりと指導をしていくつもりです。

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます

